

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：33936

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K14431

研究課題名(和文) ギャンブル行動の抑制につながる臨床心理学的研究：システム開発とログデータ解析から

研究課題名(英文) The clinical psychological study of control for gambling behavior: system development and analysis of log data

研究代表者

横光 健吾 (YOKOMITSU, KENGO)

人間環境大学・総合心理学部・講師

研究者番号：70822154

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ギャンブル欲求に対処可能なスマートフォンアプリケーションの開発を行い、そのアプリケーションを用いて無作為化比較試験を開始したところである。スマートフォンアプリケーションに搭載されているシステムは、「依存症対処支援システム、依存症対処支援方法、及び、コンピュータプログラム」として特許の申請を2019年に実施し、2021年に公開されたところである。無作為化比較試験は、全参加者のリクルートは完了しておらず、引き続き研究を実施予定ではあるが、この研究期間中に、研究のプロトコルやスマートフォンアプリケーションのアイデアに関して、学術大会での口頭発表を実施してきている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、ギャンブル依存症の治療におけるEMI、及びJITAIの開発であり、依存症研究の文脈においては非常に有効性が期待される研究であり、無作為化比較試験終了後、速やかに論文投稿をすることで、学術界の重要な発展をすることが可能である。

研究成果の概要(英文)：In this study, we have developed a smartphone application capable of coping with gambling cravings and have just initiated a randomized controlled trial using the application. A patent application for the system in the smartphone application was filed in 2019 and published in 2021 as "Addiction coping support system, addiction coping support method, and computer program". The randomized controlled trial has not completed recruitment of all participants and will continue to be studied, but during this study period, oral presentations have been made at academic conferences regarding the study protocol and the smartphone application idea.

研究分野：ギャンブル依存症

キーワード：ギャンブル依存症 依存症 スマートフォンアプリケーション メンタルヘルス EMI JITAI

## 1. 研究開始当初の背景

ギャンブル障害とは、精神疾患の診断・統計マニュアルでは「臨床的に意味のある機能障害または苦痛を引き起こすに至る持続的かつ反復性の問題賭博行為」と定義されている。ギャンブル障害者は「掛け金を増やして賭博をする」、「賭博を中断・中止すると落ち着かなくなる」、「賭博へのめり込みを隠すために、嘘をつく」等の症状を呈する。わが国のギャンブル障害者の有病率は 0.8% である (松下, 2018)。また、ギャンブル障害の基準には満たないが、ギャンブル障害に移行するリスクを抱えた者、及びその家族や周囲の者をあわせると、過度のギャンブルのために生活苦に直面している者は 300 万人を超える。

現在わが国では、医療機関やクリニック、都道府県の精神保健福祉センター等において、「刺激制御」や「リラクス・プリベンション」を治療要素として含む、対面式の認知行動療法を利用することが可能である。しかし、ギャンブル障害者が自発的に治療機関へアクセスする割合、及びその治療継続率は低いことがわかっている (森山, 2008)。そのため、過度のギャンブルのために生活苦に直面している者の多くは、治療を受けることなく生活を送っており、何らかの手段を講じなければ今後もそれが継続することが予想される。

現在、対面式の認知行動療法では、危険な刺激をノート等に記載し、その記憶を頼りに現実場面で刺激を回避・対処させている。これまでも、ギャンブル行動の抑制に一定の成果を示してきている認知行動療法ではあるが、近年の科学技術の進展に伴い、モバイル版等の多様な形式の心理学的支援を用いることで、より一層ギャンブル渴望への対処能力の獲得、及びそれに伴うギャンブル行動の抑制が期待できる (Giroux et al., 2017)。

具体的には、スマートフォンを用いて、渴望が生起するまさにその瞬間に、渴望の回避、及び対処方法に関する手がかりを即時的に提供することで、ギャンブル行動の抑制を狙う。つまり、危険な刺激 (位置情報や時刻) を事前に登録し、登録地点や時刻に近づくと、対処方法を自動的に提示する仕組みを開発する。このように、日常生活の中で即座に問題行動をコントロールする治療要素を盛り込んだ介入方法 (EMI) は、非常に注目されている。

## 2. 研究の目的

本申請課題を通して、ギャンブル障害者の治療において最も重要な治療ターゲットである、『「ギャンブル渴望」への対処』に焦点化した新しい心理学的治療に関する知見を得ることを目的とする。具体的には、以下の 3 点を実施する。

「モバイル版ギャンブル渴望対処アプリケーション (Mobile version of the Gambling craving coping Application: 以下、MGA)」の開発: ギャンブル障害者がスマートフォンを用いて、ギャンブル渴望を生起させる刺激を回避し、渴望への機能的な対処方法のヒントとなる情報を取得することによって、ギャンブル渴望への対処能力を獲得できる機能を備えたアプリケーションを開発する。また、MGA は、日常生活の中で即座に問題行動をコントロール可能にする治療要素を盛り込んだ介入方法 (Ecological Momentary Intervention: 以下、EMI)) である。

無作為化比較試験を用いた、MGA がギャンブル行動に及ぼす効果の検討: 上記で開発された MGA が、ギャンブル障害を呈する者のギャンブル行動、金銭的損失、ギャンブル渴望等の低減に及ぼす効果を検証する。

ギャンブル行動の抑制に及ぼす心理学的要因の検討: 上記で得られた MGA に蓄積された膨大なログデータ (参加者情報、パーソナリティ、ギャンブル渴望のきっかけや対処方法等) を用いて、ギャンブル行動の抑制につながる心理学的要因を解明する。

## 3. 研究の方法

### (1) 倫理的配慮

本研究は、人間環境大学研究倫理審査委員会の承認を得たうえで研究を実施した (承認番号 22 人環大第 212 号)。また、参加者への倫理的義務を考慮し、WHO のプライマリ・レジストリとして認められた UMIN 臨床試験登録システムへの研究情報の事前登録を行った (UMIN 試験 ID UMIN000043270)。

### (2) 研究手続き

以下の手続きに沿って無作為化比較試験を実施することで、ギャンブル渴望への対処スキルの獲得を狙うスマホアプリの効果検証を行った。

### 1) 参加者

ギャンブル依存症の重症度を測定することのできる Problem Gambling Severity Index を用いて、3点以上のギャンブル依存症の問題に直面していると判断された20歳以上の174名の募集を目標として研究を実施した。2023年1月6日から募集を開始し、2023年3月31日までに、76名の募集を行うことができた。本研究期間は2023年3月31日までではあるが、2023年4月以降も募集を継続する予定であり、最終174名が研究参加した時点で募集を終了する。

研究参加者募集は、リスティング広告(yahoo)を用いて実施した。リスティング広告とは、検索エンジンでユーザーが検索したキーワード(検索語句)を元に、検索結果画面に掲載されるテキスト形式の広告のことである。リスティング広告を用いた理由としては、ギャンブル問題に直面しており、かつ治療の必要性を感じている方の多くが、「パチンコ 治療」「ギャンブル 病院」などのキーワードを用いて、検索エンジンで検索を実施することが考えられる。したがって、リスティング広告は、そのようなキーワードでの検索を実施した人々に、本研究への参加(無料でギャンブルの問題への対処方法を学ぶことの可能な研究参加)を促すことが可能である。

リスティング広告の運用は、デジタメ株式会社の協力のもと行われた。

2) 除外基準: スクリーニング前4週間にギャンブルの治療や自助グループへの参加、スクリーニング前4週間に他の構造化された精神療法を受診する者とした。

### 3) スマホアプリの機能

本事業で用いられるスマホアプリには、以下の4つの機能が備わっている。

ギャンブル欲求が生じる危険な場所(例: 駅前のパチンコ店)及び危険な時刻(例: 土曜日の午前9時)を事前に登録。

登録地点に接近(半径100m程度)もしくは登録時刻に、通知が送られる。

通知取得後に、ギャンブラーは渴望の強さや気分を評価。

ギャンブル行動の抑制を狙うため、渴望への対処方法が提示(対処方法も事前に登録しておく)。

なお、参加者に対しては、研究代表者から直接電子メールを通じてスマホアプリのファイルが送られ、インストールを実施した。そして、スマホアプリの使用方法について、以下の資料を用いて、スマホアプリの説明を行った。質問等がある場合、その場で使用方法について説明を実施した。

#### アプリケーションの概要

**1: 事前登録**  
ユーザーは、嗜癖行動に関連する欲求(例: ギャンブル欲求)が生じる可能性の高い特定の場所や時刻を登録する

**2: アラート機能**  
事前に登録された場所に接近、あるいはその時刻になると、ユーザーにアラートが送られる(スマートフォン画面上にポップアップされる)

**3: モニタリング機能**  
ユーザーは、現時点での欲求レベル等を評価する(自身の状態を観察する)

**4: 対処機能**  
ユーザーは、欲求を緩和させる、あるいは欲求から気をそらすために、事前に登録された対処方法を実行する(例: YouTubeを見る、家族等に電話をかける)

#### 1: 事前登録 (ハイリスク状況の特定)

**位置情報の登録**

ユーザーには、欲求が生じる可能性の高い場所を登録してもらう

- 位置情報については、google mapを使用
- 危険な場所は複数設定可能

設定したポイントから、半径●メートルを危険エリアとして設定予定

#### 1: 事前登録 (ハイリスク状況の特定)

**時刻情報の登録**

ユーザーには、欲求が生じる可能性の高い時刻を登録してもらう

- 時刻情報はアラーム機能を使用
- 危険な時刻は複数設定可能

#### 1: 事前登録 (対処方法)

**対処方法の選択**

上手に、ギャンブルから気をそらす方法を登録。  
アプリ、ニュースのURL  
テキスト(散歩する、何か思い出すためのヒントを記入)

登録可能なその他の対処:

- パートナーや知人の電話番号を提示
- スマートフォン内の画像を提示

#### 2: アラート機能

**ポップアップ通知**

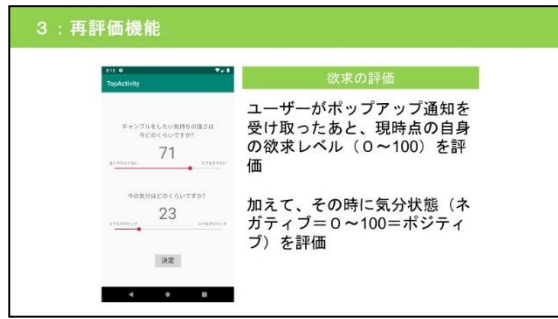
ユーザーが事前に登録した場所に近づく、あるいは時刻になると、ポップアップ通知が届き、危険な状況の可能性を伝える。

#### 3: モニタリング機能

**欲求の評価**

ユーザーがポップアップ通知を受け取ったあと、現時点の自身の欲求レベル(0~100)を評価

加えて、その時に気分状態(ネガティブ=0~100=ポジティブ)を評価



4) 効果測定：介入開始前、介入開始 1 ~ 4 週間後 ( 4 週間後は介入後 ) その後、介入開始 6、8、10、12 週間後に、ギャンブル行動、及び臨床心理学的な問題を測定する。

#### 4. 研究成果

本研究の主要アウトカム指標の解析には線形混合モデリングを用いた。線形混合モデリングが選択された理由は、欠損データへの対応に優れており、解析にランダム効果を組み込むことができるからである。解析では、従属変数をギャンブル日数とし、独立変数を割り付け ( カテゴリー変数：アプリ群、アプリ+簡易面接群、アセスメント群 ) と時間 ( カテゴリー変数：ベースライン = [ T1 ]、各フォローアップ = [ T2-T9 ] ) とし、各時期の比較を実施し、参加者をランダム効果変数とした。同様の解析を、ギャンブルに費やした金額、ギャンブルの症状を従属変数として解析した。線形混合モデリングを用いた解析の前に、各期間におけるすべてのアウトカム指標のデータについて正規性検定を行い、正規分位数-分位数プロットを用いてすべての変数が事実上正規であることを確認した。ギャンブルに費やした金額を除くデータは、プロットグラフがほぼ直線になることから、正規分布の要件を満たしていた。しかし、ギャンブルに費やした金額の正規分位数-分位数プロットは、プロットグラフが直線でなかったため、対数変換を行った。対数変換を行う際、無回答のデータや 0 と回答したデータの前処理として、ギャンブルに使った金額のデータに 10 を加えた。

解析の結果、参加者の各測定時期のギャンブル日数とギャンブル症状について、統制群とアプリ群との間に差異は認められなかった。一方、ギャンブルに費やした金額について、介入後に、アプリ群と統制群との間で統計的に有意な差異が認められた ( $t(581.68) = -2.145, p < 0.05$ ) が、フォローアップ期間にそのような差異は認められなかった。

それぞれの結果を示したものが Figure 1~3 である。Figure 1~3 において、緑がアプリ群のデータ、橙がアプリ+簡易面接群のデータ、紫が統制群 ( アセスメントのみを実施 ) のデータである。

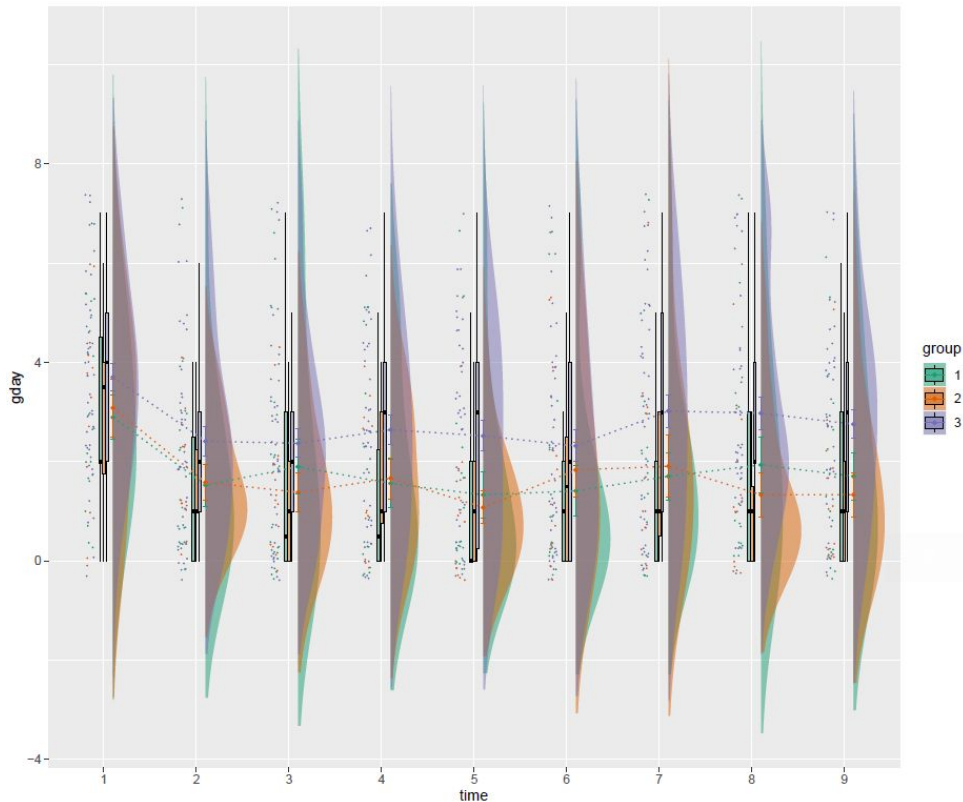


Figure 1 各群のギャンブル日数の変化



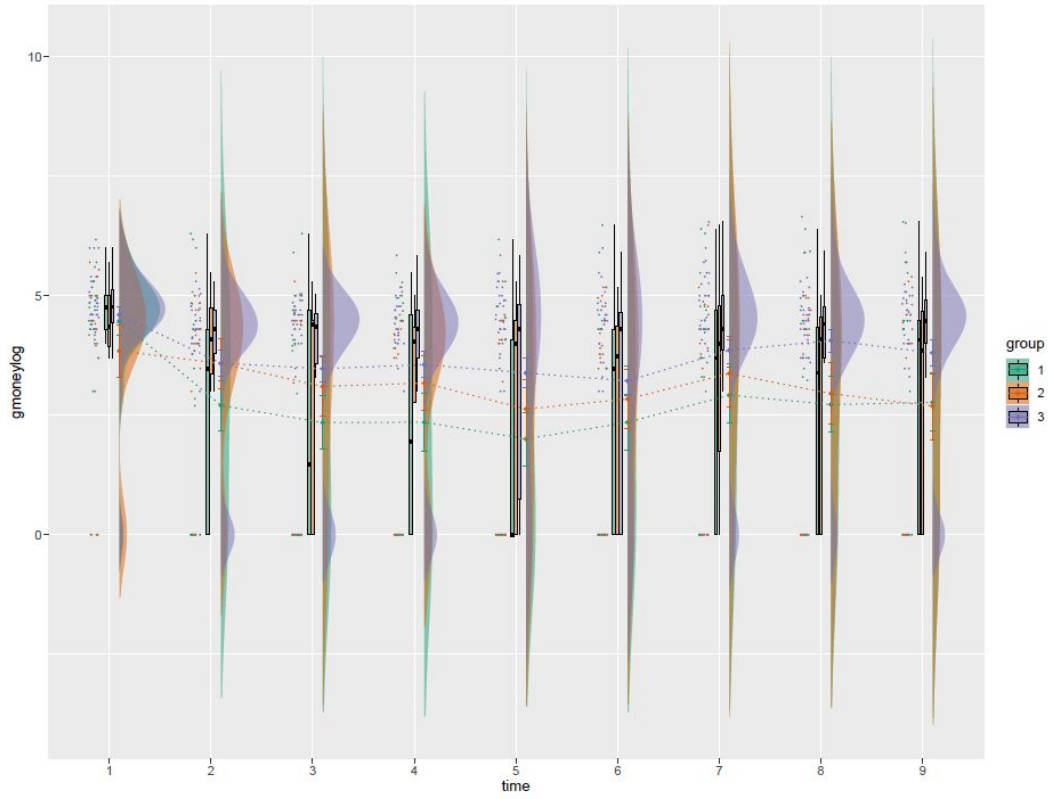


Figure 2 各群のギャンブルに費やした金額の変化

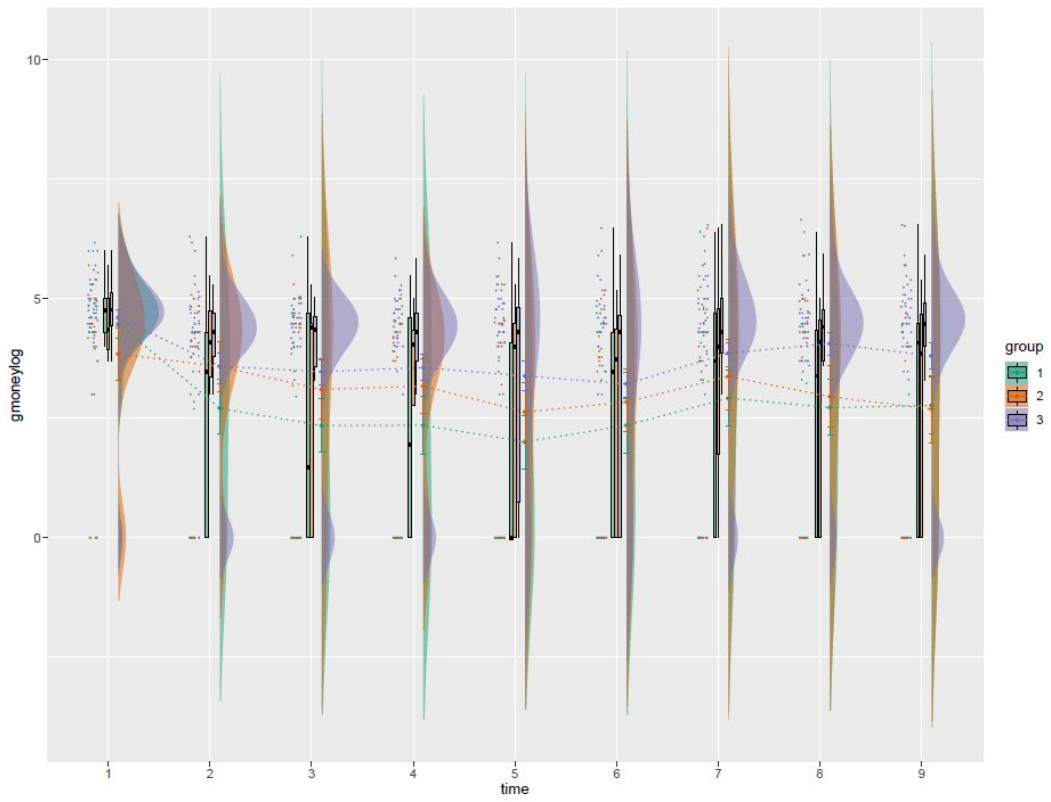


Figure 3 各群のギャンブルに費やした金額の変化

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 17件／うち国際共著 2件／うちオープンアクセス 7件）

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Irie Tomonari, Kengo Yokomitsu  | 4. 巻<br>49            |
| 2. 論文標題<br>The Impact of Problem Gambling on Families and Relationship Partners: A Scoping Literature Review                        | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>Journal of Gambling Issues  | 6. 最初と最後の頁<br>1～43    |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.4309/jgi.2022.49.1  | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）   | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>Inoue Kazuya, Yokomitsu Kengo, Irie Tomonari, Matsuyama Makoto, Tanaka Masanori   | 4. 巻<br>16            |
| 2. 論文標題<br>The validation and reliability of a Japanese version of the Problematic Online Gaming Questionnaire (POGQ-J)             | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>Addiction Science & Clinical Practice   | 6. 最初と最後の頁<br>69      |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1186/s13722-021-00273-3   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）   | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>Shinkawa Hiroki, Irie Tomonari, Tanaka Masanori, Yokomitsu Kengo  | 4. 巻<br>12            |
| 2. 論文標題<br>Psychosocial Adjustment and Mental Distress Associated With In-Game Purchases Among Japanese Junior High School Students | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>Frontiers in Psychology   | 6. 最初と最後の頁<br>708801  |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.3389/fpsyg.2021.708801  | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）   | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>Yokomitsu Kengo, Irie Tomonari, Shinkawa Hiroki, Tanaka Masanori  | 4. 巻<br>8             |
| 2. 論文標題<br>Characteristics of Gamers who Purchase Loot Box: a Systematic Literature Review  | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>Current Addiction Reports   | 6. 最初と最後の頁<br>481～493 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1007/s40429-021-00386-4   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-             |

|   |                           |
|---|---------------------------|
| 1. 著者名<br>Fujiwara K., Yokomitsu K.   | 4. 巻<br>53                |
| 2. 論文標題<br>Video-based tracking approach for nonverbal synchrony: A comparison of Motion Energy Analysis and OpenPose | 5. 発行年<br>2021年           |
| 3. 雑誌名<br>Behavior Research Methods   | 6. 最初と最後の頁<br>2700 ~ 2711 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.3758/s13428-021-01612-7  | 査読の有無<br>有                |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-                 |

|   |                      |
|---|----------------------|
| 1. 著者名<br>高階 光梨、鈴木 ひかり、白塚 龍太郎、大橋 佳奈、宮下 太陽、横光 健吾                   | 4. 巻<br>47           |
| 2. 論文標題<br>日本における抑うつ症状に対する心理学的支援を目的としたスマートフォン用アプリケーション・プログラムのレビュー | 5. 発行年<br>2021年      |
| 3. 雑誌名<br>認知行動療法研究  | 6. 最初と最後の頁<br>1 ~ 10 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.24468/jjbct.20-001                 | 査読の有無<br>有           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                            | 国際共著<br>-            |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>上宮 愛・仲真紀子・鈴木愛弓・横光健吾・山 祐嗣・山本渉太・越智啓太       | 4. 巻<br>20            |
| 2. 論文標題<br>性犯罪の再犯予防に関する現状と課題ー領域横断的な共同研究の可能性に焦点を当てて | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>法と心理                                     | 6. 最初と最後の頁<br>121-127 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                     | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難             | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Kengo Yokomitsu, Keita Somatori, Tomonari Irie  | 4. 巻<br>1             |
| 2. 論文標題<br>The effects of smoking on mood, rapport, and satisfaction in conversation among Japanese smokers in a first meeting: a randomized controlled trial | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>Communication Research Reports  | 6. 最初と最後の頁<br>123-136 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1080/08824096.2020.1789578   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>該当する          |

|   |                  |
|---|------------------|
| 1. 著者名<br>Yokomitsu Kengo, Sakai Takanobu, Irie Tomonari, Tayama Jun, Furukawa Hirokazu, Himachi Mika, Kanazawa Junichiro, Koda Munenaga, Kunisato Yoshihiko, Matsuoka Hirofumi, Takada Takuhiro, Takahashi Fumito, Takahashi Takahito, Osawa Kaori | 4. 巻<br>14       |
| 2. 論文標題<br>Gambling symptoms, behaviors, and cognitive distortions in Japanese university students  | 5. 発行年<br>2019年  |
| 3. 雑誌名<br>Substance Abuse Treatment, Prevention, and Policy   | 6. 最初と最後の頁<br>51 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1186/s13011-019-0230-5   | 査読の有無<br>有       |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>-        |

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>Yokomitsu Kengo, Irie Tomonari, Sekiguchi Mayu, Shimizu Ayako, Matsuoka Hirofumi, Merry Sally Nicola, Stasiak Karolina   | 4. 巻<br>9            |
| 2. 論文標題<br>Gamified Mobile Computerized Cognitive Behavioral Therapy for Japanese University Students With Depressive Symptoms: Protocol for a Randomized Controlled Trial | 5. 発行年<br>2020年      |
| 3. 雑誌名<br>JMIR Research Protocols  | 6. 最初と最後の頁<br>e15164 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.2196/15164  | 査読の有無<br>有           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>該当する         |

|   |                           |
|---|---------------------------|
| 1. 著者名<br>Yokomitsu Kengo, Kamimura Eiichi, Somatori Keita  | 4. 巻<br>early publication |
| 2. 論文標題<br>Validation of the Japanese Version of the Pathological Gambling Adaptation of the Yale-Brown Obsessive-Compulsive Scale (PG-YBOCS-J) Among Subclinical Japanese Gamblers | 5. 発行年<br>2020年           |
| 3. 雑誌名<br>International Journal of Mental Health and Addiction  | 6. 最初と最後の頁<br>none        |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1007/s11469-020-00258-4  | 査読の有無<br>有                |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-                 |

|  |                    |
|--|--------------------|
| 1. 著者名<br>Irie Tomonari, Yokomitsu Kengo   | 4. 巻<br>10         |
| 2. 論文標題<br>Relationship Between Dispositional Mindfulness and Living Condition and the Well-Being of First-Year University Students in Japan | 5. 発行年<br>2019年    |
| 3. 雑誌名<br>Frontiers in Psychology  | 6. 最初と最後の頁<br>2831 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.3389/fpsyg.2019.02831   | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-          |



|  |                        |
|--|------------------------|
| 1. 著者名<br>Irie Tomonari, Yokomitsu Kengo, Sakano Yuji  | 4. 巻<br>14             |
| 2. 論文標題<br>Relationship between cognitive behavioral variables and mental health status among university students: A meta-analysis | 5. 発行年<br>2019年        |
| 3. 雑誌名<br>PLOS ONE   | 6. 最初と最後の頁<br>e0223310 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1371/journal.pone.0223310   | 査読の有無<br>有             |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-              |

|  |                    |
|--|--------------------|
| 1. 著者名<br>杉取恵太・横光健吾・金井嘉宏・佐藤健二・坂野雄二     | 4. 巻<br>58         |
| 2. 論文標題<br>嗜好品関連行動尺度の作成と妥当性の検討         | 5. 発行年<br>2019年    |
| 3. 雑誌名<br>行動科学                         | 6. 最初と最後の頁<br>1-12 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-          |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>山本晃輔・横光健吾                    | 4. 巻<br>28          |
| 2. 論文標題<br>嗜好品による自伝的記憶の機能尺度の開発         | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>パーソナリティ研究                    | 6. 最初と最後の頁<br>67-79 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>瀧川真也・横光健吾                       | 4. 巻<br>17          |
| 2. 論文標題<br>嗜好品に関する回想機能の特性における年代および嗜好品間の差異 | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>認知心理学研究                         | 6. 最初と最後の頁<br>49-58 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし            | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難    | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>横光健吾・金井嘉宏・佐藤健二・杣取恵太・坂野雄二                                | 4. 巻<br>28          |
| 2. 論文標題<br>嗜好品摂取の心理学的効果と幸福感及び満足度との関係：対人関係上の出来事に遭遇した際の嗜好品摂取に焦点をあてて | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>パーソナリティ研究   | 6. 最初と最後の頁<br>87-90 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                                    | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                            | 国際共著<br>-           |

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 4件)

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Kengo Yokomitsu  |
| 2. 発表標題<br>Gambling behaviors in daily life and the midst of the spread of COVID-19 in Japan: Clinical Psychology Perspectives. |
| 3. 学会等名<br>Korean Psychological Association Annual Convention (招待講演) (国際学会)   |
| 4. 発表年<br>2020年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Yokomitsu Kengo.   |
| 2. 発表標題<br>Gambling disorder and related problems.                                |
| 3. 学会等名<br>The 6th Asia-Pacific Society for Alcohol and Addiction Research (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Yokomitsu Kengo.   |
| 2. 発表標題<br>Motivation, Tobacco, Nicotine  |
| 3. 学会等名<br>The 6th Annual Meeting of Asian College of Neuropsychopharmacology (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Yokomitsu Kengo.  |
| 2. 発表標題<br>The development of the mobile version of the gambling craving coping application. |
| 3. 学会等名<br>The 6th International Conference on Behavioral Addictions (国際学会)                  |
| 4. 発表年<br>2019年  |

〔図書〕 計2件

|                            |                 |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>坂野 雄二、百々 尚美、本谷 亮 | 4. 発行年<br>2021年 |
| 2. 出版社<br>金剛出版             | 5. 総ページ数<br>236 |
| 3. 書名<br>心の健康教育ハンドブック      |                 |

|                                   |                 |
|-----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>高階光梨・横光健吾               | 4. 発行年<br>2020年 |
| 2. 出版社<br>誠信書房                    | 5. 総ページ数<br>192 |
| 3. 書名<br>遠隔心理支援スキルガイド：どこへでもつながる援助 |                 |

〔出願〕 計1件

|  |                           |               |
|--|---------------------------|---------------|
| 産業財産権の名称<br>依存症対処支援システム、依存症対処支援方法、及び、コンピュータプログラム | 発明者<br>学校法人立命館・国立大学法人福井大学 | 権利者<br>同左     |
| 産業財産権の種類、番号<br>特許、特願2019-154444                  | 出願年<br>2019年              | 国内・外国の別<br>国内 |

〔取得〕 計0件

〔その他〕

researchmap  
[https://researchmap.jp/yokomitsukengo/published\\_papers](https://researchmap.jp/yokomitsukengo/published_papers)

6. 研究組織

|  | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|